



# アニュアルレポート中国2006



The Japan Institute of Architects

アニュアルレポート(支部活動報告書)中国2006

—発行—  
平成19年9月

—編集—  
社団法人日本建築家協会中国支部  
編集局編集委員会

—製作—  
社団法人日本建築家協会中国支部  
〒730-0013広島市中区八丁堀5-23オガワビル  
TEL(082)222-8810/FAX(082)222-8755  
URL <http://www.jia-chugk.org>

—表紙—  
株式会社松岡製作所(交流部会)  
専務取締役 松岡 剛

—印刷—  
株式会社ユニックス

## 建築家憲章

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

### (創造行為)

建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく創造行為として業務を行います。

### (公正中立)

建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

### (たゆみない研鑽)

建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

### (倫理の堅持)

建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持します。社団法人日本建築家協会（JIA）会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、JIAは会員の質と行動を社会に保障するものです。

## CONTENTS

- 2006年度 中国支部事業 総括 … 1  
支部長 村重保則
- 第一回 建築家養成講座 … 2  
「プロフェッショナル アーキテクトへの道」  
平成19年2月25日～3月25日  
・実行委員長コメント  
実行委員長 杵村優一郎  
・各講座講師による内容報告とコメント
- 第一回 中国支部大会 … 8  
「JIA建築大会 広島 2007」  
平成19年3月28日～3月29日  
・実行委員長コメント  
実行委員長 矢田和弘  
副実行委員長 仲子盛進  
・内容報告
- アニュアルレポート創刊によせて … 16  
交流部会長 吉野康夫
- 編集後記 … 16  
編集委員長 土肥晶仁
- JIA中国支部組織図 … 17
- JIA中国支部会員リスト … 17

## 2006年度 中国支部事業 総括



社団法人日本建築家協会中国支部長 村重保則

国内建築界において、一部の倫理観が欠如した建築関係者の行動により、直接建築にかかわらない人たちからも注視されている状況のなか、我々建築家として何をなすべきか？

対社会的には、地元選出の政治家に対し JIA の目指す士法改正の案内等をもって個々に働きかけをした。会長をはじめとする本部の真摯な対応にもかかわらず、抜本的な改正には至らなかった。しかし、今後の改正に対してもより堅実な運動を展開し継続することが大変重要である。支部として出来る限りの協力をしたいと思う。

支部では昨年9月「支部基本政策会議」と称し支部長経験者との懇談会を実施した。JIA が設立されてはや19年が経過、しかしながら資格制度、登録建築家制度は確立への運動をしてきたのにも拘らず、いまだに試行期間中とあってその経緯を掴むことすら難しくなっている。そんな中、支部の抱える財政、組織、事業等の諸問題について支部長経験者の方々の貴重なご意見をうかがうことができて、大変有意義な懇談会であった。これについては来年度中に中期的な展望をまとめたいと思う。

### ■事業計画の実施について

- ・財務面の窮状を回避するために固定経費の削減を余儀なくされ、昨年末より事務局賃貸契約主借主の立場を譲ることでこれからの会計に少なからず対応できた。
- ・ホームページについてはリニューアルを実施し、最新の情報が提供できるようになった。しかし、会員の紹介についても未整備な面が多く、より積極的な会員諸氏の参加が望まれる。課題はまだ多岐にわたっている。
- ・本年2、3月に開催された「第1回 建築家養成講座」プロフェッショナル アーキテクトへの道一と題して実施された事業は、次世代の建築家を志す若手技術者や学生に対し、支部会員が講師を務める実務訓練教育である。まだ初めての取り組みで受講者にも戸惑いがあるが、私は素直に「これだ!」と思った。わずかな参加数であったが内容の濃い講義となった。これも継続事業として地域に密着したものとなることを確信している。
- ・建築家大会（支部大会）の実施について。中国支部5県のうち、会員は岡山・広島に集中しているといってもよい。日頃他県の会員との交流は電話やメールによるものが殆どでなかなか一堂に会する機会がない。年に一度ぐらいは顔を合わせて親睦を深めるのもお互いの意識向上に良い刺激となっていくと思う。2日間にわたって仙田会長による基調講演をはじめ、デザインフォーラムや5つのセミナーを開催し、CPD 認定も得られた。事業年度の締めくくりともいえる会議として毎年開催継続が望まれる。

### ■アニュアルレポート発刊の意義

本部ではアニュアルレポートの作成に力を注いで2005年度レポートが発刊された。実績を記録し、継承していくことの大切さは誰もが認めるところである。中国支部においてもその重要性を認識し、今年度初めてアニュアルレポートを作成発行することになった。次年度のより活発な活動に繋がるものとなれば幸いである。

**第一回 建築家養成講座**  
**「プロフェッショナル アーキテクトへの道」**

建築家養成講座 実行委員長 杵村優一郎

この講座は、優れた建築家を養成することを目的として開催された。建築家に求められる人格・能力を身につけるために、何が必要か、大切かという観点から次の4つを重点課程とした。講師はすべて当支部会員、充実したものとなった。

1. 建築家のあり方

社会から求められる建築家像を示し、身に付けるべき素養を解く。経験豊かな方に講師をお願いした。示唆に富む講義内容に加えて、講師御自身の人間性から学ぶものが多かった。

2. 業務遂行の方法

業務の実態・過程を示し、遂行にあたっての要領を解く。様々な事業を手掛けた体験を通して語っていただいた。普段、学校等では聞けない有益な内容となった。

3. デザインの方法

建築をつくる時、何をどのように考えるかを解く新進気鋭の人から熟練した人まで、御自身の造られた建物を通して、その方法を示していただいた。意欲を喚起させられた。

4. 保存と再生

既にあるものの価値を認めること、生かして使う手法を学ぶこと、集落の研究、古民家の再生等の具体例を示していただいた。興味深いだけでなく、前代から残されたものに対する強い意識づけとなった。

今回の受講者はすべて実社会で建築に係る 20代から40代までの人達 (内女性1名)。若い講師より年長の受講者もいた。募集した人員に満たなかったが、それだけ受講者にとっては濃密なものとなった。毎回のフリーディスカッションでは活発に意見が交わされた。

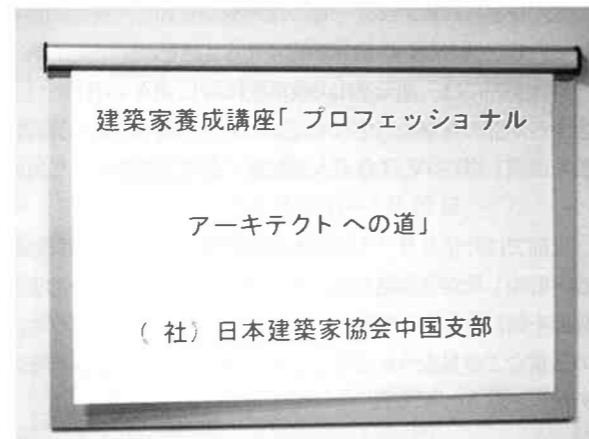
立ち会った我々担当者にとっても楽しく有意義な時間が持てた。多忙の中、綿密な資料を準備され、親身なお話をいただいた各講師の方々に厚く感謝を申し上げ、受講者の方々の活躍を期待している。

■事業の主旨と概要

平成19年2月25日～3月25日の4日間にわたり、建築家を志す学生や建築設計事務所に勤める若い人を対象に建築家養成講座を開催した。会場は広島市中区にあるRCC文化センター。

数日間に及ぶこのような講座は、中国支部としてはじめての試みである。

今回の参加者はわずか6名であったが、九州支部で行われている「建築塾」のように、意義ある講座として広く認識された恒例の事業となるよう、今後も続けていきたい。



■第一日目 (平成19年2月25日)

・1限目 (10:00～11:00)

講座: P・M

講師: 杉田輝征

村重支部長を初め関係者の皆さんが新たに「建築家養成講座」を企画された事に対し、会員として大変喜んでおります。又其の企画に僅かですが係われた事に対し、嬉しく思います。



(杉田氏による講義の様子)

激動する社会情勢の中で何時の時代も若者と係わり合い、会社でも学校でもない環境では、自分の信じるものを伝えることは大変困難な事と思いますし、又逆の立場で聞き役になる難しさも十分認識いたします。決して分かり合えることなく、ぶつかりあい、議論し、主張し合う事が、創立時からのJIAの最高の良さと思います。

参加してみてまだまだ消化不良と感じますが、それも自分の身の至らなさや反省しつつ、参加された皆さんの真剣なまなざしが多くを通して力となり、自分の信ずる事への自信になってくれれば幸いです。

頑張れ、若者。

・2限目 (11:00～12:00)

講座: 建築家としての倫理と行動

講師: 倉森 治

「プロフェッショナル アーキテクトへの道」講座で私に「建築家としての倫理と行動」というコマが与えられました。日頃は倫理感をもって仕事をするべく行動しているつもりですが、いざ人前で自分は如何に倫理感に溢れ、道に外れぬ日常を過しているか(?)を話すのは大変おこがましいことです。そこで自分の生い立ちや日頃考えていることなどを話しました。

私の父がやはり建築設計に携わっておりまして、子供の頃から「建築家」の倫理感や行動については色々聞かされて育ちました。そして自分の事務所をもって約40年。多くの経験のなかこの教えを守るべく努めてまいりました。これらから得た事柄や反省を人前で講義することは、自分の口で自分を訓しているようで恥づかしい思いばかりです。でも訥弁の講義が若い人に少しでも伝わったならうれしいことです。



(講師を務められた倉森氏と前田氏)

・3、4限目 (13:00～15:00)

講座: デザイン・設計

講師: 前田圭介

講座内容としては近作の住宅を主に厳しいプロセスを経て竣工に至るまでをスライドを中心に講義を行いました。

まず、クライアントとの最初のやりとりから、敷地環境の読み取りなど設計コンセプトを導きだすまでの試行錯誤。そして、見積り調整や工事段階での様々な事象やディテールなど設計図と現場との誤差を限りなくゼロに近づけるための工事関係者との詰めなど。

建築という、人と人とのコミュニケーションを経てひとつのモノを創りあげる難しさや、たくさんの人が関わるからこそその感動など建築家として私が日々感じていることを話させていただきました。

講義後、受講者の皆様とのフリーディスカッションを通してモノづくり意識のようなものが共有でき非常に有意義な講座となりました。

・5限目 (15:00～16:00)

講座: フリーディスカッション

講師: 全員



(初日、フリーディスカッションを受ける参加者たち)

■第二日目（平成19年3月4日）

・1、2限目（10：00～12：00）

講座：保存・再生

講師：樫村 徹

地域において「古民家の再生」と言う仕事に出会い、その中で新しい設計の方法論の確立を目指して活動してきた。また地域だからこそできることを探し、その質を高めることに専念してきた。

これからの時代においても益々その意味は重要であり、建築の設計の分野においても、ただアーキテクトに憧れ目指すのではなく、地に着いた形で地域に根ざした活動を見出し、続けてほしいと願っていることを伝えたつもりである。

参加者は皆、熱心で好感は持てた。しかし、もう少し参加人数を15～20人は確保する必要があるように思う。

多くの先輩達が熱心に関わっているのだから、それに呼応する状況を作り出すことが必要であると思われる。



（講師を務められた樫村氏）

・3、4限目（13：00～15：00）

講座：デザイン・設計

講師：窪田勝文



（講師を務められた窪田氏）

・5限目（15：00～16：00）

講座：フリーディスカッション

講師：全員



（フリーディスカッションを受ける参加者たち）

■第三日目（平成19年3月18日）

・1、2限目（10：00～12：00）

講座：保存・再生

講師：森保洋之

山口県上関町の祝島集落を主対象とした約6年の研究成果を基に、集落の「環境共生」への教えに耳を傾け、「共生的な住環境形成への眼差し」について考え、更に“ものづくり”の捉え方や、現在のまちなかの、殊に、いえ・通り・まちのあり方や、密集市街地の再生のあり方、等に関する内容豊かな講演であった。

今後の環境共生・循環社会への“ものづくりの哲学の必要”、“知識・知恵への学びと、それによる自信の形成”と共に、その基本に“ものづくり人”としての“我儘・傲慢から脱した謙虚さの必要”、一方、その中にも“開けた空間形式の提示の必要”、そしてそれへの精進が必須、等々の、建築家として如何にあるべきかを問うた講座であった。



（講師を務められた森保氏）

・3、4限目（13：00～15：00）

講座：デザイン・設計

講師：古本竜一

建築をデザインするとき、単なるビジュアル的な美ではなく、領域や空間から受ける身体的・心理的な心地良さ、或いは良質の刺激を創造することに発想の根源がある。建築に関する情報が豊富な現代だが、建築デザインの原点に立ち戻って理論的に解析してみせる機会は意外に少ないように思う。

そういった理由から「領域・空間・ひと、その関係性」を講義題目とした。連続講義であり、他のデザイン担当の諸氏と講義内容が重複しないようにと意識したものでもあったが、シラバス不在の運営状態ではその結果を知る術もない。

アーキテクトになるのは難しい。そこに取って“養成”と

いう手を差し伸べるのであれば、プログラム全体の方針や同科目講師相互の分担確認は最低限必要かと考える。



（講師を務められた古本氏）

・5限目（15：00～16：00）

講座：フリーディスカッション

講師：全員



（講師の古本氏と参加者）

■第四日目（平成19年3月25日）

・1限目（10：00～11：00）

講座：建築家としての倫理と行動

講師：錦織亮雄

建築家といういささか尊称と思われる職能につく心得は何であろうか。それは、生き方の美しさを追い求める心ではなかろうか。さすれば生きているということはどのようなことなのか。

大自然の瞬一瞬の組み合わせの中にある人間として自然を畏れ…。

何億年の長い歴史をつなぐものとして持続のために生き…。

人間が作っている社会の仕組みの進化に寄与し…。

その上で自己の可能性を発現する。

—そして美しさとは何なのか。

目的に比して手段が過大ではなく、内容に比して形式が過大ではないことではなかろうか。

建築家として生きることは、思索と修練にさいなまれる求道であるから…、安易にこの道に入ってはいけない。

建築家の仕事は深い匿名性の中にあり、今の時代にもはやされるカリスマ建築などの様にその本質はない。



（講師を務められた錦織氏）

・2限目（11：00～12：00）

講座：P・M

講師：大旗 健

“PMについて”の演題を頂いた。

我々地方における設計事務所では、業務の中にPM同様の作業が当然の如く付随している。日常業務の中で施主と施工者の間に立ち、プロジェクトの立ち上げから竣工までに行うさまざまな業務の一部はサービス業務としてとられているのが現状である。土地探し、法的調査、事業の企画、採算計画、時にはディベロッパー、テナント探しまで…。

今回の基準法の改正は耐震偽装事件が起きたことを考えるとやむを得ないと思われるが、建築家を信用しない、どちらかといえば性悪説に立った改正であり、我々建築家の守備範囲の領域がますます厳しくなると思われる。

今回の演題の“PMについて”に加えて、外山義（とやまただし）氏の論文をもとに、これからの高齢者施設、福祉施設の今後の展望は、“終の住処”となる住宅の延長線上にあることについて話した。



（講師を務められた大旗氏）

・3、4限目（13：00～15：00）

講座：デザイン・設計

講師：奥田 實

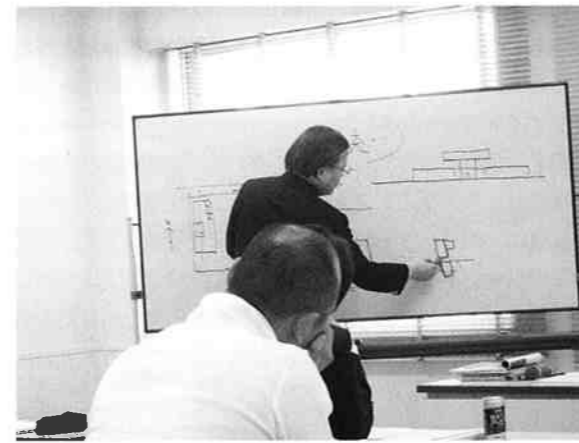
約40数年前、今は亡き建築家、西澤文隆氏より「自他共に認められる建築家でありたいと思うなら、独立して生きてみよ」との箴言をいただいた。その動機づけにより20数年前勤務したスーパーゼネコン設計部を退職し独立した。以後ひたすら建築家として理想を掲げ生きてきて30年が経過した。

今回これから建築家を目指そうとする若い人達に、プロとしての心がまえ、即ち「建築家の心得」を自分の経験をベースにお話させていただいた。

真実の処、「建築家への道」は生易しいものではないから道半ばで挫折しないために相当の覚悟で頑張ってくださいものである。

講座のまとめに当たり平日頃、自分自身に言い聞かせている座右の銘を披露した。

「プロは感動させてこそプロである。」



（奥田氏による講義の様子）

・5限目（15：00～16：00）

講座：フリーディスカッション

講師：全員



（最終日、フリーディスカッションの様子）



（全講義終了時には参加者に受講証を授与した）



（講座終了時の記念撮影）

第一回 中国支部大会  
JIA建築家大会広島2007

中国支部大会 副実行委員長 仲子盛進

中国支部大会 実行委員長 矢田和弘

JIA中国支部2006年度事業の一環として「JIA建築家大会広島2007」と題し、支部では初めての大会を3月28、29日の2日間にわたり開催しました。この大会は他支部のような全国規模の支部大会ではなく、支部会員を対象としたものです。

初日は、国交省の榊原部長様をはじめ、来賓の方々や本部仙田会長ご臨席のもと、大会式典が行われ、続いて仙田会長には、JIAが現在取り組んでいる内容や、設計中の「新広島球場」の映像を使つての基調講演をしていただきました。

次に若手支部会員の前田さん、土居さんをそれぞれプレゼンターにデザインフォーラムが行われました。仙田会長、前近畿支部長の出江さん、支部会員の錦織、細見さん達がコメントを務められましたが、諸氏の的を射たコメントはさすがと思われました。(前田さん、土居さんも頑張りました)

初日最後は、20階レストランにてレセプションパーティーがあり、仙田会長、出江さん、来賓のみなさんと一緒に120名以上参加の素晴らしいパーティーとなりました。

2日目は、支部活動報告等の後、インドを訪ねられた島根地域会の龜谷さんによる「西インド建築の実情」と題した講演がありました。スライドを交えた内容で、まるで民族音楽が聴こえてきそうなエキゾチックな西インド建築の世界に浸りることができました。

次に再生保存セミナーでは、「まちや再生トラスト」の理事長による倉敷の実情と、広島工大・森保会員による「祝島のまちなみ」の講演がありました。森保先生のライフワークとも言える内容と喜々とした話しぶりが印象に残っています。

さらに、広島地域会の佐々木会員による建築相談セミナーでは、長年の経験からの実体験をお話していただきました。(佐々木さん本当にご苦労さまでした)

最後は、交流部会セミナーで、中国電力様の台所まわりのプレゼン及び、各社出展コーナーでのPRなどが行われました。2日間にわたる大会でしたが、初回にしては大変充実した“手作りの支部大会”になったと思っています。

この大会を開催するにあたり、会場をご提供いただいた交流部会会員の中国電力様をはじめ、会場設営、運営等にご尽力いただいた交流部会の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

●2007年建築界を取り巻く状況

一人の建築士の行動で日本の建築界は混乱の渦に飲み込まれています。常識ある人間からは考えられないことであり、これは日本の建築業界に対するテロであったと言えます。そのテロとは「アネハ事件」であり、ここで問題として浮かび上がった点は「手続きと資質」でした。

建築家協会は建築家の資質向上についてどの団体よりも議論を重ねてきた経緯があります。

しかし、国土交通省は自分たち行政の身を守るために「手続き」を優先させ、技術的に問題ない建築を作ることに重きを置き、現場で最後の最後まで悪戦苦闘し設計変更してでも良い建築を作ろうとする建築家の前に大きな障害物を構築してしまいました。

●建築家としての資質の向上に向けて

建築家は障害物の除去と資質向上の2つのことを同時に行う必要性が出てきました。障害物の除去は団体として、また関連他団体とも協力して行う必要があります。

しかし、我々建築家にとって如何なる状況であっても、自己研鑽を含めた資質の向上は必要です。

建築家協会という団体に所属しているが故に可能な資質の向上の機会が、今回の中国支部建築家大会であったと言えるでしょう。

●デザインフォーラム

受身の資質向上のプログラムが多い中で、どちらの立場にも身がおけるデザインフォーラムは大変有意義でした。特に出江寛氏の切り込みの鋭さ、多彩さが目を引きました。出江さんのパーソナリティに助けられ進行できたと思います。

発表者の不慣れな部分で、満足な発表が出来なかった点がありました。この点は回を重ねることで解決できると思われ

ます。今後は若い建築家の作品だけではなく年齢に関係なく同じ建築家として作品について議論される場になればよいと考えます。地域会活動を活発にする方法としても、有効な手法だと思いました。

●次回岡山大会に向けて

今回の反省点は、「1.内容の練りこみがされていなかった」「2.時期を無理矢理年度末に行った」という点にあると思います。第一回大会は、如何なる状況であれそれなりに無言のバックアップによりどうにかなるものと私は思っています。

次回岡山大会が成功して初めて中国支部大会が認知されると思います。次回はより多くの人が協力して、素晴らしい大会にする必要を強く感じます。

■事業の主旨と概要

「中国地方の豊かな文化創造と建築家の活動」をサブタイトルに、平成19年3月28日、29日の2日間にわたり開催した2006年度中国支部事業。会場は広島市中区にある中国電力の電気ビル。

他支部で行われている大規模な支部大会や、本部の大会とは主旨を変え、地域社会と支部会員の交流、研修、親睦を深めることが目的であったため、対象者として一般の方も参加できる大会とした。

また、各セミナーはCPD認定事業となっており、年間に必要な単位の単位を取得することができるようになっている。

手探りの中で開催した大会であったが、交流部会の全面的なバックアップと、予想を上回る会員の参加により、第一回を飾るに相応しい大会となった。

<第1日目>

■大会受付(28日11:30~)

電気ビル11階にて大会受付。

■大会式典(28日13:00~)

開催の挨拶及び大会の予定説明。来賓者の紹介、JIA会長、仙田満の紹介。



(村重支部長挨拶の様子)

本大会実行委員長(島根副支部長)矢田和弘より挨拶。中国支部長、村重保則より挨拶。国土交通省中国地方整備局営繕部長、榊原氏より、ご祝辞。司会進行は、中国支部幹事長、藤井洋。



(大会式典会場の様子)

■基調講演(28日13:30~15:00)

JIA会長の仙田満による基調講演。演目は「人と町を元気にする空間と環境」。景観法や、ヒューマンスケールにあったストリートファニチャーの考え方などについて、ご講演をいただいた。

また、広島地域会からの要望で、現在実施設計中の広島新球場についてのお話もしていただいた。

講演後の質疑については、新球場竣工までのスケジュールや予算面についての質問が挙がる。

司会進行は、広島副支部長、仲子盛進。



(仙田会長による基調講演の様子)